

核兵器全面禁止条約の交渉開始を

香川県原水協ニュース

No.
135

2020年5月12日

原水爆禁止香川県協議会

電話・FAX087-831-5350

国民平和進行の横断幕は高松市から三木町へ

一言メッセージは累計14枚に。新たなニュースの受信先も1人増えました！

明日は新婦人（花の宮モスバーガー前）・県労連（JR高松駅前）のスタンディング

高松市

開会は藤沢やよいさんの進行で始まり、大西秀人市長のメッセージを代読。メッセージは、平和行進が始まった由来を紹介し、その意義深さに敬意を表しました。そして、この行進を県で支える運動の前進を期待するとともに、新型コロナウイルス感染に配慮した出発式に対しお礼を述べ、無事に愛媛県への引継ぎを願って挨拶としています。

さらに檜昭二香川県平和委員会筆頭理事が、今年が被爆75年、NPT（核不拡散条約）発効50年という節目の年であると指摘し、2017年に採択された核兵器禁止条約の調印が今81か国・36か国が批准されているが、今年中にあと14か国の批准を得て発効を願うことを強調しました。そしてそのためにも全国自治体約1800の内、448自治体が政府への調印・批准の意見書を提出しているが、県内では三木町のみ意見書採択であり、何としても全市町の意見書採択を勝ち取り、日本政府に核兵器禁止条約の調印・批准を迫ろうと訴えました。最後に新型コロナウイルスに負けずに平和行進を進めようと呼びかけました。高松市からは人権啓発課の合田さんと橋田高松市平和祈念館館長が参加されました。

三木町

伊藤町長が議会中のためいつもの出迎えとご挨拶はいただけませんでした。しかし今年も「ペットボトルのお茶」1ケースをいただきました。木田郡原水協は多田等さぬき東民主商工会会長が挨拶。多田さんは2年前に福島県の楢葉・広野・富岡3町を訪問した時の状況を説明。富岡・広野町の危険区域の内側は草ぼうぼうの荒れ放題となり、宿泊したJビレッジは、当時支援した自衛隊の支援拠点として使われ、サッカーもできなかつたと強調。さらに事故前には130人いた児童が、6~7人しか帰郷していなかつたと、原発の危険性を改めて告発しました。核兵器も原発も根は一つと指摘し挨拶としました。



市職員さんも入って高松市役所で



職員さんも一緒に町役場前で